



ISSN 1347-4502

2014 第25号

JICE

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING

REPORT

特集：維持管理・メンテナンス

インフラの維持管理・更新 ―「橋梁マネジメント」を基に―	02	研究報告	52
社会資本の維持管理に思うこと	18	トピックス	58
円滑な維持管理・メンテナンス実施のための		事業紹介・事業報告	63
技術・調達政策における課題と対応策	24	寄稿	64
河川の維持管理計画～PDCAサイクル型維持管理計画について～	31	JICEからのお知らせ	80
道路の維持管理に関する最近の動き	39	JICEバックナンバーの紹介	86
官民が連携したまちの管理	45		

昔と今そして未来

今号より、『インフラの昔と今 そして未来』として表紙を作成しています。
インフラの昔と今、さらに未来へとつなげていくメッセージを発信したいと考えています。
今号は、そのはじめとして、日本国道元標が埋標されている『日本橋』をとりあげました。



「日本橋」の昔／歌川広重（木曾海道六拾九次之内 日本橋）

日本橋は、慶長8年（1603年）に現在の日本橋川と街道の交差する場所に江戸幕府によって架橋され、慶長9年（1604年）には東海道、甲州街道、中山道、奥州街道、日光街道の五街道の起点となりました。五街道と舟運によって、各地から様々な物産が集まり、大勢の人々が往来する都市の中心地として賑わいました。



「日本橋」の今

現存の花崗岩づくりのルネッサンス式二連アーチ橋（橋長49m、幅27m）は、路面電車や増える車の通行の荷重に耐えうる石橋として、明治44年（1911年）に改架されました。昭和39年（1964年）の東京オリンピックの開催にあわせ、東京都心の交通混雑を回避することを目的に首都高速道路が建設され、日本橋の上空が道路で覆われました。



「日本橋」の未来

表紙のイラストでは、日本橋の真上にある高速道路を無くし、水辺を再生し、緑豊かなオープンスペースと親水空間を整備することで、人々が行きかい、交流する日本橋の未来のイメージを描いています。
インフラの維持管理では、老朽化への対応だけでなく、時代の要請に対応した機能の付加や周囲の環境も含めた積極的な保全が求められます。